

地域住民の協力による積極的運営が支える 「森林の分校ふざわ」

昭和57年に廃校となった分校施設を改装し、平成9年に運用を開始した山村の暮らし体験施設「森林の分校ふざわ」は、平成19年に町から地元有志による「森林の里応援団」に運営を移行。企画・情報発信の強化、体験メニューの充実など積極的な運営が行われており、平成20年には町営当時に比べて5倍の約1,900名(年間)の利用客が訪れ、グリーン・ツーリズムを満喫している。



背景と課題

町営による廃校活用・管理の困難

昭和33年に建築された「只見町立明和小学校布沢分校」は昭和57年「只見町立明和小学校」に統合され廃校となった。しかし、地域住民から分校施設を残してほしいという要望が多かったことにより、布沢地区住民の交流の場として活用することになった。その後、平成8年度に国土庁(当時)の「過疎地域活性化施設整備事業」の認定を受け、地域資源の活用や雇用の創出によって農村集落を活性化することを目的に、都市との交流の拠点施設として山村の暮らし体験施設「森林の分校ふざわ」の整備が行われた。

町の直営施設として平成9年度から施設の運用を開始。管理の一部(管理・利用料徴収)が地元の布沢集落に委託され運営していたが、集落だけでは運営基盤が乏しく徐々に施設の管理が厳しい状況となっていた。



取組のきっかけ

地域の有志が拠点施設の管理運営を担う

布沢集落のみでの管理が厳しいという状況を受け、只見町ではこれまで以上に運営組織や事業収支等、運営基盤を強固にするため、布沢集落を含めた布沢川流域の住民から有志を募った。その結果、集った有志によって平成19年度より「森林の里応援団」が組織され、指定管理者として「森林の分校ふざわ」を管理運営することとなった。

校舎は改修され体験学習に適した施設となり、農業・食文化体験、伝統工芸体験、野外体験など施設内外を活用した各種体験学習プランを実施し、企画・情報発信、体験メニューの充実など積極的な運営が行われている。

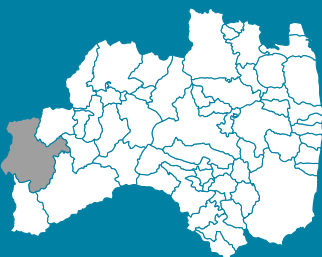


森林の里応援団

所在地：〒978-0607
福島県南会津郡只見町
布沢字大久保544
連絡先：0241-71-9511
(FAX兼用)

福島県只見町

総人口：5,243人
高齢化率：40.6%
世帯数：1,988世帯
総面積：747.53 km²





地元の自然資源を活かした体験・学習プラン

取組1

廃校施設の整備・活用

昭和57年に廃校になった「只見町立明和小学校布沢分校」に対して、地域住民からの施設保存の意向を受け、平成8年に国土庁(当時)の「過疎地域活性化施設整備事業」を活用し、山村の暮らし体験施設「森林の分校ふざわ」として整備した。

取組2

地域の有志による管理・運営

布沢川流域に住む有志による組織「森林の里応援団」が施設を管理・運営しており、地域の体験・学習施設にふさわしい建物へと改修を行った。いろいろを備えた「語らいと創作の間」をはじめ、調理実習のできる「食伝の間」と「快食の間」、寝泊りする「夢見の間」など、各部屋がコンセプトをもった魅力的なつくりとなっている。

取組3

多彩な体験メニューと地元食材を使った料理

ブナ原生林が自生する「恵みの森」をはじめ、多くの恵まれた自然資源を活用した体験学習ツアーを季節ごとに提供。ツアーのガイド料金を施設の宿泊料金と別にすることで、宿泊者でなくても参加できる。さらに宿泊時に提供される食事は地元の食材をふんだんに使い、「食」の体験学習としての工夫も施している。

取組4

インターネット等による情報発信

観光業として営む上で欠かせないインターネットでの情報発信に努めている。ホームページの作成・運営や、関係団体ホームページへのリンク貼り、旅行代理店のページへの記載等、地域資源やツアーの魅力的な写真を掲載し、閲覧者の興味を引いている。



成果

入れ込み客数の増加

「森林の里応援団」に管理運営が移行されてから日は浅いが、移行前の年間利用者が400人程度であったのに対し、2年後の平成20年度には約1,900人と5倍近い人数が訪れている。

それに伴って売上も向上し、平成18年度は約160万円だった売上が平成20年度には560万円となり、地域の新たな産業として確立しつつある。

地域住民のやりがい

地域に人がたくさん訪れるようになり、住民が生産した食材を提供したり、ツアーの案内を通して都市部の人と交流することで、地域への誇りが醸成され、新たな仕事に対するやりがいが生まれている。

新たな仕事の創出

体験学習の案内人として、または施設の管理人として地域に新たな仕事が生まれている。スタッフは15名だが必要に応じて変動し、臨機応変に運営されている。